進捗報告書（資金分配団体）

● 提　出　日　：　2022 年 10 月 31 日
● 事　業　名　：　安全・安心な地域社会づくり支援事業
● 資金分配団体　：　更生保護法人日本更生保護協会

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1　支援地域(滋賀県)において、サポートグループにつながり、息の長い支援を受ける状態になる【滋賀県更生保護事業協会】	支援を受けた人の人数	70 人	2023 年 1 月	①直接支援活動（彦根地区 28 回、高島地区 6 回、大津地区 6 回） ※間接支援活動（守山地区 39 回、近江八幡地区 28 回） ※実行団体が、事業計画変更時に指標を活動の実施回数に変更したもの。	2

2　支援地域（広島県・埼玉県）において、更生保護施設退所者及び非行少年等がサポートグループの活動につながる状態になる。【ウィズ広島・清心寮】	支援につながった更生保護施設退所者及び非行少年等の数	"①初期値より月平均30人増加（月平均100人）【ウィズ広島】 ②1回3人【清心寮】	2023年1月	①2022年4月～2022年9月間の相談人数は延べ943人。内訳は支援員延べ748人。補導員延べ195人、これは支援員が相談等の際、代わりに補導員が相談を受けた人数。月平均：約157人。 ②0人（活動団体が今年度の活動を停止）	2
3　支援地域（福岡県・東京都・埼玉県・神奈川県及び千葉県）において、サポートグループが行う依存症回復支援につながる状態になる。【ジャパンマック、両全トウネサーレ、清心寮】	"支援を利用した罪を犯した依存症者の数	"①年間 24 人増加【ジャパンマック】 ②年間 20～30 人（10～20人増加）【両全】 ③1回当たり10人（7人増加）【清心寮】	2023年1月	①2022年度上半期は32名の新規相談。 ②2020年4月～2022年8月31日まで（電話相談）19人延53回実施（自助グループ）36人 ③2022年度は5月、6月、8月は1回あたりの参加者1名。4月、7月、9月は寮内でコロナ感染者が発生し中止。	2
4　支援地域（福岡県・愛知県・岐阜県・大阪府・広島県）において、サポートグループにつながり、生活再建支援や悩み相談支援等を受ける状態になる。【TFG・全国再非行防止ネットワーク協議会・のわみサポートセンター】	"①相談を受けた若年女性の数【ＴＦＧ】 ②支援を受けた非行少年等の数【全再協】 ③支援を受けた刑務所出所者等の数【のわみ】"	"①相談カードの配布数が初期値年150枚から60枚増加 ②3年間で37人 ③毎月新たに2～3人"	2023年1月	①4月約150枚 5月約180枚 6月約120枚 7月約150枚 8月約170枚※関係団体５０枚配布 9月約120枚 ②延べ19人 ③2022年度上半期で7人	2

5　支援地域（愛知県・神奈川県・埼玉県）において、サポートグループの実施する就労サポート事業につながった状態になる。【愛知県就労支援事業者機構・神奈川県就労支援事業者機構・清心寮】	"①支援を受けた刑務所出所者等の数【愛知県就労支援機構】 ②就労支援フォローアップを受けた刑務所出所者等の数【清心寮】 ③支援を受けた非行少年の数【神奈川県就労支援機構】	"①年間 39 人 ②年間 150 人（50 人増加） ③3 年間で 41 人"	2023 年１月	①13 人（法定期間経過後 6 人・インターンシップ 7 人） ②2022 年度 9 月末現在 72 人（実人員） ③4 人（職場体験 3 人、職場定着支援 1 人）	2
6　支援地域（福岡県、埼玉県、愛知県）において、罪を犯した人や非行少年等の更生支援について、理解・協力の働き掛けが行われる。【ＴＦＧ、清心寮、全国再非行防止ネットワーク協議会】	"協議会・講演会・勉強会等の実施回数 "	・初期値より 2 回増加【ＴＦＧ】 ・初期値より 3 回増加【清心寮】 ・年間 4 回【全再協】"	2023 年１月	①0 回（11 月に講演会を開催予定） ②6 月にオンラインでネットワーク協議会を開催。 ③地域別勉強会を 3 回（東北・四国・九州）実施。下半期に残り 5 地域で実施。来年 1 月に広島でシンポジウムを開催予定	2
7　支援地域において、支援を受けることにより社会復帰への意欲が喚起され、立ち直りに至った事例または再犯に至った事例のナラティブ。	事例（ナラティブ）の数	全ての実行団体で各 10 人程度	2023 年１月	2022 年 6 月から各団体に事例の提供を依頼し提出してもらっているが、十分な提供のない団体がある上、弊協会でも提供された事例の整理ができていない。	3

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
8（0101）　実行団体が、資金分配団体の目標（有機的な地域ネットワーク（つながり）形成）について、理解する。	"実行団体のうち、資金分配団体の目標について、理解できた数（①十分理解できた②理解できた③どちらでもない④あまり理解できなかった⑤全く理解できなかった）	すべての実行団体が、「①十分理解できた」又は「②理解できた」と回答する。	2023年１月	①９月に実施した匿名アンケートで、８団体が「十分理解できた」、２団体が「理解できた」と回答している。	2
"9（0102）実行団体が、事業を進める上で連携強化の必要性を理解し、連携構築又は強化したい関係機関・組織について、把握・整理している	"実行団体が、事業を進めていく上で、連携関係を築きたい又は連携関係を強化したいと思っている機関・団体について、把握し、整理できている。	すべての実行団体で、事業を進めるために必要な関係機関・団体について把握・整理できている。	2023年１月	2022年６月～９月に、９団体のエコマップワークショップを実施し、各団体と関係機関との連携の進捗状況の確認と今後の課題を確認した。	2
10（0103）実行団体が、連携が必要な関係機関・団体に対し、連携を呼びかけ、相互に協力できる関係性に向けた働き掛けをしている	""実行団体が、連携が必要な関係機関・団体に対して、連携構築又は強化のために必要な働き掛けを行っている。	"すべての実行団体が、事業を進める上で連携構築・連携強化が必要と考えたすべての関係組織・団体に対し、意識的・継続的に働き掛けを行っている。	2023年１月	同上。エコマップを作成し、すべての団体が、事業を進める上で必要と考えている機関・団体に対し働き掛けを進めていることを把握できた。	2

"11（0104）)支援地域において、実行団体への様々なサポートが行われる（経験が蓄積される。）	①実行団体が事業の困り事に対して(資金分配団体から)必要な支援が提供されたと感じているか ②他の実行団体の取組や外部講師からの学びを、自団体の活動に生かすことができた（できそうだ）と感じた実行団体の数	"①すべての実行団体が「必要な支援が提供された」と感じている。 ②すべての実行団体「他団体の取組や学びを活動に生かすことができた（できそうだ)」と感じている。"	2023年１月	①９月に実施した匿名アンケートで９団体が、「必要な支援が提供された」と回答している(10段階で１が４団体、２が７団体、３，４が各１団体) ※１団体は回答なし ②９月に実施した匿名アンケートで７団体が「学ぶことがあった」、１団体が「どちらでもない」、２団体が「あまり学ぶことはなかった」と回答	2
12（0201）実行団体が、助成終了後に活動を継続するため何が必要か（課題）について、理解できている。	①実行団体が、活動を継続するために乗り越えるべき課題が何かを把握し、十分に理解できている。	すべての実行団体が活動継続のために必要な課題を把握し、十分に理解できている（課題の明示ができる）	2023年１月	①９月に実施した匿名アンケートで、９団体が「課題がある」「まあある」と回答し、１団体は「あまりない」と回答し、それぞれ課題が何かについても回答しており、課題の把握はできている。	2

"13（0202）実行団体が、0201で把握した課題を解決するために必要な取組を行っている。	"①実行団体が、活動を継続するために乗り越えるべき課題の解決に向けた取組を行っている。	"①すべての実行団体が、活動継続のために必要な取組を行っている（具体的な取組内容、取組回数）	2023年１月	①９月に実施した匿名アンケートで、５団体が「取り組んでいる」と回答。	3
14（0301）　実行団体の取組みについて、その手順･進め方（作り方のコツ）のノウハウが整理される。	"①実行団体の取組について、その手順（コツ）が把握･整理されている	①実行団体の取組の手順や進め方（ノウハウ）について、資料化されている。	2023年１月	①評価アドバイザーと、ノウハウ整理になる報告書の作成について作成を予定し意見交換を行っている。	2

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
6.(任意)非資金的支援の活動に関する報告

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☐広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☑その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：会議等で使う資料等に使っている
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 2.広報制作物等 「更生保護」（日本更生保護協会発行・月刊誌・５万部発行）に実行団体の連載記事を掲載（2022 年５月～） 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

添付資料

活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、3～4 枚程度）